

映画『ウォーナーの謎のリスト』製作エピソード

講師：金高謙二映画監督

10月から11月にかけて都内で映画「ウォーナーの謎のリスト」が上映されました。第二次世界大戦中に米国で作成された「ウォーナー・リスト」には、日本において空爆するべきでない建物や施設が列挙されていますが、その中には横浜にある原富太郎の絵画や彫刻のコレクションも含まれています。今回はその映画を製作した金高謙二監督にお話を伺いました。



金高監督

金高監督は神田神保町の八木書店の主から、エリセーエフの一声で神保町の本屋街が空襲に遭わずに残ったというのは本当かと聞かれたことがあるそうです。セルゲイ・エリセーエフ（1889-1975）はロシア出身で日本に留学経験があり、日本文学を海外に広め、戦中は OSS（アメリカ戦略諜報局）の顧問を務めました。彼と親交のあったラングドン・ウォーナー（1881-1955）は、ハーバード大学附属フォッグ美術館東洋部長などを務め、戦中にロバーツ委員会委員としてウォーナー・リストを作成、その功績が知られて没後には

日本国内に供養塔や碑が6ヶ所で建立されています。ウォーナーに日本の文化財について助言を与えたと目されている朝河貫一（1873-1948年）は、戦争回避のために大統領から天皇へ親書を送ることをウォーナーと共に発案しました。

映画は多くの証言者のインタビューから構成されるドキュメンタリーです。講話では映画でカットされた映像も見せていただきました。今後、各地で上映会が企画されているそうです。

